

## ホスピスにおける音楽療法のための啓発活動 実施レポート

特定非営利活動法人音楽療法NPOムジカトゥッティ

代表者：多田羅康恵

### 1. 臨床の場での音楽療法の実践・調査

- (1)時期:2008年5月19日 12月5日 2009年1月16日の計3回
- (2)内容:音楽療法士のセラピー、交流コンサート、効果の調査
- (3)場所:尼崎医療生協病院ロビー、緩和ケア病棟
- (4)参加者:患者・家族・スタッフ 計100名

日本ではホスピスにおける音楽療法の実践は発展途上の分野であり、現場の理解や社会認知がなかなか得られない状況であるので、啓発を目的としたロビーコンサートを企画した。

とき:2008年5月19日午後

ところ:尼崎医療生協病院1Fロビー

参加者:入院患者さんとその家族、医師、看護師などの病院スタッフ

目的:患者さんや家族の癒し

奏者:オカリナ奏者、馬頭琴奏者、ピアニスト

内容:演奏と交流

尼崎医療生協病院開設1周年を記念して実施したこのコンサートでは、おだやかで心落ち着くオカリナ、悠久の響きの馬頭琴やホーミー、それらを統合的にサポートするデジタルピアノによる演奏に、患者さんや家族がくつろぎ、医師、看護師も参加しての交流コンサートは和やかな雰囲気が進められ、車椅子の患者さんの朗々とした歌声が印象的であった。総師長からは、こうした時間の大切さを実感とのコメントがあり、緊張を強いられるスタッフにとっても癒しの時間となったと考えられる。実施内容は、音楽之友社発行[theミュージックセラピーvol.13]p.103に掲載された。病棟での実践は昨年度に引き続き実施、患者本人はもとより、家族の癒しに効果があった。医療スタッフの理解は個々の差があり、「つながりの医療・ケアと癒し」が今後の課題と考えられた。

### 2. 音楽療法フェスティバル、セミナー

- (1)時期:2008.8.31 2008.11.23 計2回
- (2)内容:音楽による交流と音楽療法の実技と講義
- (3)場所:8.31 兵庫県立美術館アトリエ  
11.23神戸学生青年センターホール
- (4)参加者:親子、一般成人計50名

#### 音楽療法フェスティバル

美術館アトリエという、またとないアートな空間でのフェスティバルは、様々な音楽家とふれあい親子連れで楽しみ、初めて出合った人々が音楽によって心をつなぐ場となり、音楽療法の基本となる、ノンバーバルコミュニケーション体験の場となった。

セミナーは、専門スキルをもつ講師による、日本では初と考えられる音楽とアートのコラボレーションで、先進的なアプローチを学ぶよい機会となった。

### 3. 楽器整備

患者さんや家族、スタッフの活動に役立てるために、レインメーカー、小型のジャンベ、チベタンベルなど、心安らぎ、活気を生み出す打楽器をホスピス病棟に整備した。



8.31 フェスティバルチラシと、会場風景



音楽療法講座



マスクダンス



表現アート



11.23 セミナー風景

音楽やアートなど、音、色、カタチは、人間の最も根源的な表現形態である。ホスピスにおける音楽療法を考えた時に、これらの統合的なアプローチは、患者のQOLや免疫力を高めることが先進例で報告されている。患者や家族にとり、有効なアプローチの発展のためには、専門スキルのアップ、専門家養成、社会認知など課題が多いが、今後も地道な積み重ねにより、その啓発を継続的に実施していくことが求められている。